資料3

関係機関・団体への意見聴取による主な意見

堺市地域福祉計画推進懇話会

2019年8月6日（火）

2019年8月7日（水）

○ヒアリングに協力いただいた団体・機関

ヒアリング時期		備考
平成３０年度 （２０１８年度） ２～３月	地域包括支援センター 社会福祉法人 校区福祉委員会 校区民生委員児童委員会 大阪保護観察所堺支部 豊田市	※昨年度調査報告書参照
令和元年度 （２０１９年度） ６～７月	社会福祉法人 職能団体 区保健福祉総合センター 障害者基幹相談支援センター 市こころの健康センター 校区自治連合会	※社会貢献活動に焦点化 ※防災に焦点化

課題①　情報を的確に伝えるしくみづくりと取組みの推進

（福祉への理解）
〇介護保険のおかげで高齢者分野において、「福祉はみんなのもの」というイメージに変わったが、児童や障害の分野はまだまだ敷居が高いと感じる。

（サービスや活動などの周知）
〇制度やサービス、活動などが充実してきたが、知らないためにつながっていない人も多いと思うので、「見える化」が必要であり、地域の協力を得てマップ作りなどを進めている。

〇日常生活圏域コーディネーターは、さまざまなケースを適切な機関につないだり、どこも関われないケースの支援を行っているが、役割が十分に周知されていないように思う。

（啓発）
〇ひきこもりについては、報道の影響などにより市民はもとより、家族や本人も負の意識が強くなっているため、その実態や支援には時間を必要とすることなどを正しく理解してもらえるよう啓発し、地域での見守りを進める必要がある。

課題②　身近な相談窓口と支援につなぐ取組み

（身近な相談窓口）
〇複雑な課題を抱える人は自分から相談に来ることは少ないので、どこかの機関が発見したときに、**適切なところにつなぐことが重要**である。

〇どこにも相談しないことが原因のケースが多く、**孤立しない**ようにしたい。

（発見とつなぎ）
〇SOSを出せない人との関係づくりのためにも、**地域の居場所**は重要である。

〇専門職が地域の人から複雑なケースをつながれたときに、**ひとりで抱え込まずに連携して支援できる体制**が必要である。

〇ケアマネジャーから地域包括支援センターなどの分野内のつなぎは進んできたが、**分野を超えた情報共有**はまだ薄いように感じる。

〇（個人情報保護の観点から）どの範囲の情報を提供できるかの目安があると、お互いに安心できるのではないか。

課題③　区を基盤とした包括的な相談支援の解決のしくみづくりの推進（1／2）

（区役所での総合相談機能）
〇複数分野にまたがるケースは、どの部局や機関が担当するかが明確ではないが、各々のセクションの職員が担当外の分野にも一定の知見をもち、アンテナを立てて把握する必要がある。

〇総合相談窓口をひとつ設置したとしても機能するかどうかは疑問があり、すべての窓口が連携して対応するよう包括的な相談支援を行う役職を各部局に置き、それを統括するような機能が必要ではないか。

（人材の養成）
〇包括的な相談支援を進めるためには、他の分野のことも知る必要があり、市の福祉職など（相談支援に従事する者）のスキルを高めるための研修の仕組みや異動のあり方なども課題である。

課題③　区を基盤とした包括的な相談支援の解決のしくみづくりの推進（2／2）

（多様な課題への対応）
〇ひきこもりについては、家族や関係機関からの相談が急増しているが、「何とかしないといけない」という**危機感を共有して連携**できる状況になっている。

〇相談を続けることが回復に結び付くので、**早期につながり、つながり続ける**ことが望ましい。

（地域福祉のネットワークの充実）
〇地域ケア会議や各種ネットワーク会議等を通じて、**地域の課題を吸い上げる仕組みが弱いと感じる**ので、地域の課題をみんなで考え、できることを考える場にしてほしい。

〇市の機構として、**福祉を横断的に推進できる部局が必要**である。

〇多くの専門職がより横断的に市や他機関と協力して地域づくりに参加できるよう、役割を明確にするとともに、地域の中の調整役であるCSWとの一層の連携が必要である。

課題④　地域でのつながりづくりと参加しやすい場づくり

（身近な活動の推進）
〇子ども食堂には定員の倍ぐらいの申し込みがあり、ボランティアの方もまた来たいと言ってくれている。

〇サロンや健康づくりの活動は多いが、月１回の開催では、介護保険サービスの代わりにはならない。

（地域とのつながり）
〇障害者の地域の行事への参加は、準備をして呼びかければできるが、地域のサロンに普通に参加するという感じは少ない。ただし、いざという時のためにつながりたいと思う人もいる。

〇連合自治会と情報を共有し、施設の行事予定を掲示板に貼ってもらっており、行事の際は自治会入会の案内をしている。

〇事業者が地域の活動を手伝いたいと思っても営業活動と受け取られる場合があるので、社協などから声をかけてほしい。

課題⑤　地域福祉の活動・サービスの担い手づくり（1／2）

（福祉学習・教育の取組み）
〇小学校の総合学習で、障害福祉に関する学習なども行われており、障害のある子どもとの隔たりもない。

〇福祉施設で子ども食堂をする中で、子どもから「施設の中をみたい」との声がでた。子どもが来ると利用者も笑顔になるので、職員には負担もあるが、続けることで意識を高めることができている。

〇子ども食堂では、学年を超えた交流が出来ることがよいと感じられている。中学生になるとボランティアに来てくれる子どももいる。

（地域福祉型研修センター）
〇求める能力を明確にして養成方法を立案することは、非常に良い。

〇地域の人と専門職が一緒に学び、「あったかプランナー」のような共通の資格が取れれば意欲が高まるのではないか。

課題⑤　地域福祉の活動・サービスの担い手づくり（2／2）

（社会貢献の取組み）
〇福祉施設では、**以前から社会貢献の取組みを進めてきた**が、社会福祉法が改正されて地域での公益的な取組みを行う責務が定められた。

〇地域の状況を踏まえ、福祉事業所などのいろいろな資源が地域の一員として参加し、地域ぐるみで関わっていくよう、先進事例を伝えることなど、**「見える化」**が必要である。

（福祉サービスを担う人材の充実）
〇職能団体では、専門性や他職種も含めたコミュニケーションを高めるよう、段階に応じてステップアップするための**計画的な研修などの仕組みを確立**している。

〇社会貢献を広げたいが、**人材不足**で本来業務が回らない状況の中で、十分にできない面もある。

課題⑥　災害への備えや支援のしくみづくり（1／2）

（地域での取組み）
〇防災訓練は、本来の目的とともに、住民が顔を合わせる**交流の場としての機能**もある。

〇**小学校の総合学習**で防災をテーマとして学習が行われており、住民が参加できる場で発表してもらい、意識の向上につなげている。

（地域での災害時の支援）
〇避難行動要支援者一覧表を活用した取組みについては、具体的な検討にいたっていない。いざという時の地域での安否確認は容易ではない。

〇福祉施設から災害時の協力を依頼されており、**平常時から交流を広げていく必要性**を感じる。地域の企業とも助け合えるよう、コミュニケーションが求められる。

課題⑥　災害への備えや支援のしくみづくり（2／2）

（専門職の取組み）
〇国の防災計画において、専門職の役割が明記され、職能団体においても災害支援が出来る人材の研修や認定を行い、全国規模の災害での被災者支援の活動を全国組織や自治体等と連携して実施している。

（連携に関する課題）
〇過去の災害支援の経験から、いろいろな機関からバラバラに報告や連絡を求められることで情報が錯綜することがあると感じた。このため、**市として情報共有の仕組みや統一された様式、評価の基準などを公民一体で平常時に作っておく必要**があるのではないか。

（整備に関する課題）
〇医療的ケアが必要な方は、生命維持のために電源が必要で、充電器の補助などが課題と感じる。

〇日常でバリアや安全面の課題がある道路や施設は、避難の時も問題になるおそれがある。

課題⑦　判断能力が十分でない人の権利擁護を支援する取組みの推進（1／2）

（成年後見制度の利用促進）

〇成年後見制度自体は知られるようになったが、利用のイメージが湧いていない人が多いように思う。

〇判断能力のある方は、「自分は大丈夫」と考えるので、成年後見制度を予防的に使うことは難しく、財産管理の必要性や虐待などが絡まないと検討に至らないのが実情となっている。

〇障害のケースについて、キーパーソンがいる間に話を進めることが難しい例が多く、制度利用を先送りせざるを得ない。

〇財産管理が中心の場合などは、利用する本人にとってのメリットが見えにくく、また、報酬が高いと利用を忌避する場合もある。

〇相談支援の専門職でも利用に関する支援の経験がないと難しいため、専門職にとっても分かりやすい制度になればよいと思う。

課題⑦　判断能力が十分でない人の権利擁護を支援する取組みの推進（2／2）

（権利擁護に関する支援の充実）

〇成年後見制度や日常生活自立支援事業以外での金銭管理も必要であり、事業者ができることや専門機関と連携するための勉強会などがあるとよいのではないか。

〇中軽度の障害がある人で、管理方法をはじめとした金銭面での課題を抱えている方は多いように思うが、顕在化しているのか。

〇後見人等にもいろいろな人がいるが、被後見人等といかに信頼関係を構築し、本人の声を代弁する役割を担っていくことが重要であるように思う。

課題⑧　犯罪や非行をした人の立ち直りを支援する取組みの推進

（支援における連携）
〇福祉的な支援が必要な出所者を適切なサービスにつなげるように、**出所準備との連携なども含めて情報の共有が必要**であると思う。

〇出所者をつなぐ社会資源があまりないように感じる。

〇支援者が関わることで**ネットワークが構築**され、犯罪の未然防止にもつながっていくのではないか。

（薬物依存の人への支援）
〇薬物依存の人の回復プログラムは**つながり続けることが基本**であり、モデルとなる使用を止めた人のチカラは非常に大きいので、**自助団体の協力を得て支援**を行っている。

〇「ダメ、ゼッタイ」というスローガンでレッテルを貼られて苦しんでいる当事者もおり、**薬物の使用と治療は分けて考えないといけない**が、市民の理解は得られにくいのが実情である。